

IPNU

キャンパスネット



本学の地域貢献について



学長 石垣 和子

本学は、以前から地域ケア総合センターを設け、数々の事業を行ってきました。これは、看護職の支援や地域での直接的な事業展開を担ってきた教員の皆さんが誰よりもよくご存じのことです。開学以来ほぼ10年間懸命に地域に尽くしてきたと言っても過言ではないと感じています。平成22年度にはかほく市との包括的連携に関する協定という形で、誰にでも見える形で実を結びました。

一方で、教育と研究に続く大学の第3の使命として地域貢献がクローズアップされ、世の中は地域貢献ブームのようになってきました。これは、平成17年に中央教育審議会が文部科学大臣に答申した「我が国の高等教育の将来像」が弾みをつけたものだと思います。そしてこのブームの中でふと気がつく、石川県下の大学も具体的な対となる地域を明確にしたうえでさまざまな取り組みをやっているではありませんか。また、そのような取り組みに対する助成金などの資金提供もあるではありませんか。

今年度、本学は思い切って石川県地域連携促進事業に応募して採択され、「来人喜人里創り創成プロジェクト」というプログラムで能登町と交流を始めました。リーダーの浅見教授のもとで創造性あふれる取り組みが展開されています。近年のこのような取り組みの特徴は、学生を中心に置いていることです。そのことに早くから着眼した垣花准教授の学生を巻き込んだ地域での活動も、平成24年度からは同事業で「かほく市発ヘルスプロモーション事業」というプログラムとして採択されて走り始める予定です。そうです。“学生のうちから大人の社会に混ぜてもらふこと”は学生にとってとても大切なことで、地域貢献というのは一方通行ではなく大学も得るところ大なのです。学生の皆さん、本学のこの2つのプログラムに積極的に参加してみてくださいね。

上記の答申でも述べているように、教育や研究も長期的な観点からの社会貢献といえます。しかし、公開講座などの生涯学習機能、産官学連携、国際交流などのより直接的な貢献も求められるようになってきています。この点については、冒頭で述べた地域ケア総合センターの事業として、従来からの精神を忘れず、しかし焦点化し、アクセシビリティを高めて一層強化して行っていく予定です。

目次

本学の地域貢献について	1	● キャンパスライフ	
大学の主な動き		● 夏期アメリカ看護研修に参加して	6
平成23年度卒業式・学位授与式	2	● 第12回看大祭を終えて	6
卒業研究発表会	2	● 同窓会の活動	
博士・修士論文発表会	2	● さくら会設立5周年事業 第1回ホームカミングデイ開催	6
卒業生・修了生の言葉	2	● 学会表彰	
公開フォーラム	3	● 日本家族看護学会ベストポスター賞受賞	6
がん看護専門看護師3名が一挙に誕生	3	● この一年を振り返って	
海外出張教員からのトピックス		● 基礎看護実習Ⅰ	7
第19回国際疫学会に参加して	3	● 基礎看護実習Ⅱ	7
The 3rd Korea-China-Japan Nursing Conferenceに参加して	3	● 第Ⅳ段階実習	7
FASEB 夏期国際会議に参加して	3	● 卒業研究	7
本学の地域貢献特集		● 大学院 博士前期課程	7
「過疎地域を前に看護大生ができることは何？」への挑戦	4	● 地域ケア総合センターから	8
被災地学生ボランティア	4	● 卒業生の内定状況	8
「来人喜人里創り創成プロジェクト」開始!	5	● 国家試験対策と国家試験結果	8
認知症にやさしいまちづくりシンポジウム	5	● キャンパススケジュール 2012年度	8



石川県立大学法人

石川県立看護大学

ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY

看護学部看護学科

大学院看護学研究科

〒929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地

TEL 076-281-8300 FAX 076-281-8319

URL <http://www.ishikawa-nu.ac.jp>

e-mail office@ishikawa-nu.ac.jp

平成23年度卒業式・学位授与式

去る3月17日、平成23年度卒業式・学位授与式が挙行されました。中西副知事をはじめ各界のご来賓のご臨席を賜り、看護学部卒業生84名、看護学研究科博士前期課程修了生5名、後期課程修了生1名の計90名が本学を巣立つことになりました。

石垣学長は式辞で、原子力の研究者が震災後にとった行動を例にして、科学が発達した今日だからこそ、コツコツと事実をつかまえて歩くこと、そして聞こえてくることを「本当か?」と疑ってかかる姿勢が大切であることを強調されました。特に人に寄り添う看護職は、その人のもとに行き届くことをそのまま見、聞こえることをそのまま聴き、感じられることをそのまま感じ取って、何が本当なのかをつかむことができるので、看護職からの発信が、科学が本当としていることをより一層本当に近づけることに繋がっていくと述べ、卒業生・修了生の前途を祝されました。在校生を代表して東あかねさんが卒業生・修了生への感謝の気持ちと先輩に続く決意を、卒業生総代の松本美鈴さんは看護職として社会に貢献していく決意を、また大学院修了生を代表して前期課程修了生の古谷和紀さんは看護の発展、そして本学の付加価値を具現化する人材となるよう努力していく決意を述べました。

本年度から創設された学長表彰は、石川コンソーシアム地域課題ゼミナール事業において、「道の駅を利用したかほく市の魅力発信プロジェクト～『安心、安全、健康』の地元特産品の創出～」で最優秀賞等を受賞した学生グループ(指導:垣花准教授)のメンバーである荻野公明さん、松本美鈴さん、渡辺達也さんの3名に贈られました。



大学院 学位授与式

緊張した面持ちで晴れやかに卒業証書を受け取る姿や、笑顔でこやかにお辞儀する姿に、4年間の成長を感じるとともに、一人ひとりの未来に大きな期待をもちました。



学部 卒業式

学生部長 西村 真実子

卒業研究発表会

平成23年度卒業研究発表会が12月27日、学内4会場において開催されました。本年度は初めての試みとして、4年生自身がプログラム作成、広報、会場設営など、さまざまな方面から準備・運営にかかわり、発表会をさらに盛り上げてくれました。発表会終了後の振り返りでは、達成感に満ちた学生達の笑顔がこぼれ、さまざまな困難を乗り越えて無事論文を書き上げ、発表を終えた感慨が語られました。最後は全員で一歩締めをして、名残を惜しみつつ散会となりました。アンケート調査などの卒業研究にご協力いただきました医療機関の皆様には、遠路ご来学賜り、充実したディスカッションや励ましのお言葉をいただくことが出来ました。この場をお借りして心より御礼を申し上げます。本学の卒業研究が今後も充実したものとなりますよう、さらには、学会発表や論文公表につながる努力によって、医療・福祉に貢献できる、小粒でもキラリと光るものを生み出せるよう、学生と共に努めて参りたいと存じます。

卒業研究専門部会長 多久和 典子

博士・修士論文発表会

2012年2月16日に修士論文発表会、2月20日に博士論文発表会が開催され、大学院生がこれまでの研究成果を発表しました。本年度は、前期(修士)課程学生5名、後期(博士)課程学生1名が発表を行いました。厳正な審査の結果、全員が合格となりました。後期(博士)課程は、これまでに7名の博士(看護学)を輩出しています。今回また、途切れることなく新たな博士号取得者を輩出できたことは非常に喜ばしいことです。大学院生の一人ひとりが審査の過程で厳しい指摘を受け、それに対応するための加筆・修正がなされ、決して楽に合格したわけではないでしょう。学位が授与されたということは、その研究内容が一定の水準に達していることと判断されたということです。大学院修了生の皆さんには、今度はぜひ学位論文を専門誌に投稿し、世に残る形で公表していただきたいと思います。そして、今後も着実な歩みを続けて欲しいと思います。

大学院教務学生委員長 大木 秀一

卒業生の言葉(学部)



4年前、私は、石川県立看護大学の9期生として入学しました。はじめは、看護への興味から志した道でしたが、臨地実習や講義等での数多くの学びにより、看護の難しさや奥深さ、そして魅力を身を持って感じ、学ぶことができました。大学生活では、膨大な量の課題やテスト、実習などで、毎日が忙しく過ぎ、心が折れそうな時が何度もありました。しかし、出会えた仲間や先生方、家族等多くの人の支えがあったことで、困難を乗り越えることができましたと感じています。大学生になって、初めての一人暮らしやアルバイトを経験しました。社会的責任を感じるようになり、また、自分で考え行動する力を養うことができ、視野が大きく広がりました。この4年間で、看護学を深められたことはもちろん、人間的にも自分を大きく成長させることができたのではないかと感じています。

卒業後は、それぞれの道へ進むこととなりますが、強い信念を持ち、石川県立看護大学の名に恥じぬよう一層奮起していきたいと思っています。ありがとうございました。

4年 三瓶 菜穂

修了生の言葉(大学院)



私は教員として学生の看護研究指導に携わる中で、倫理観や研究手法について一から学びたいと考え、大学院に進学しました。かつては抽象的で難しいイメージが先行していた理論も、過去の自分の臨床経験に引きよせて考えることができ、自分の看護をより深めることができました。また看護に関する法律や政策、それらの変遷についても学び、看護の社会的な位置付けや仕組みについて知り、広く深い視野で看護を学ぶことができました。大学院生は年齢や経験年数、職場や職位も違うので、様々な視点でのディスカッションは面白く、学ぶものも多かったです。

生涯「看護」に携わりたいと考えていた私にとって、この2年間は看護観を整理し見直す貴重な時間となりました。大学院生活でお世話になった先生方をはじめ、多くの皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。今後は大学院での学びを臨床や教育現場に貢献できるように努力していきたいと思っています。

大学院博士前期課程 看護デザイン分野 小田 沙矢香

公開フォーラム

「今、よみがえる、ナイチンゲールからの贈り物」

ナイチンゲール没後100年を記念して、彼女の不朽の名作「看護覚え書」の言葉を現代に伝える映画が完成しました。本学では、この映画をつくる会代表の川嶋みどり先生（日本赤十字看護大学名誉教授）をお招きして、本学の学生や臨床の看護職の方々、400名を超える参加者を得て公開フォーラムを実施いたしました。映画上映の後、川嶋みどり先生から「ナイチンゲールを越える看護実践の課題」と題して講演を頂きました。今日、看護師の手のぬくもりを介して行うケアが少なくなったことを憂いながらも、今こそ、看護師の手の価値を！と新たな「TE-ARTE（てあーて）学」を広げたいとのチャレンジの言葉が強く印象に残りました。その後のパネル・ディスカッションでは、ナイチンゲールからの学びに関する具体的な実践報告を頂きました。本学の北嶋華さんの臨地実習での体験や諸江由紀子さん（金沢社会保険病院看護科長）の臨床における看護実践、神庭純子先生（西武文理大学）の看護教育の取り組みが紹介されました。あらためてナイチンゲールの数々の言葉が現代の看護実践の道標となることが確認できました。



ナイチンゲールの肖像
現代社所蔵

地域ケア総合センター長 川島 和代



がん看護専門看護師 3名が一挙に誕生

平成19年度から大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）の交付を受けてスタートした北陸がんプロフェッショナル養成プログラム（以下、「北陸がんプロ」）は、今年度で予定の5年間の活動を終了します。最終年度である平成23年度には、本学大学院博士前期課程（北陸がんプロ本科生）修了生である、村上真由美さん、長光代さん、岡山弥里さんががん看護専門看護師に認定されました。彼女らには、これからの北陸のがん医療・看護の質の向上のために知識や技術の普及活動に務め、さらに患者をひとりの人間としてケアし、一人でも多くのがん患者を支援していただきたいと思えます。本学においても、この5年間の北陸がんプロの実績を活かし、来年度からの新たながん看護教育・実践の発展に努めていきたいと考えています。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

北陸がんプロフェッショナル養成プログラム
企画運営委員長 牧野 智恵

第19回国際疫学会に参加して

2011年8月7日から11日までエジンバラで開催された第19回国際疫学会に参加しました。この学会は、疫学研究の国際学会として3年ごとに開催されています。エジンバラは、英国北部のスコットランドの首都であり、旧市街と新市街の町並みの対比が美しく、ユネスコの世界遺産にも登録されています。エジンバラ城をはじめとして、名所旧跡も豊富な観光地です。毎年8月には、エジンバラ・フェスティバルと呼ばれる芸術祭典が行われており、今回の学会はまさにこの時期の開催であったため、街中は観光客であふれかえていました。学会会場のエジンバラ国際会議場は駅から歩くと30分以上かかりますが、周りの景色がきれいなので、それほど長くは感じませんでした。私は演題として、Estimation of the contribution of assisted and non-assisted reproductive technology fertility treatments to multiple births during the last thirty years in Japan: 1977-2008 を出しました。多くの疫学研究に接することができ、有意義な時間でした。出張旅費として学内共同研究海外旅費助成を頂きましたことに感謝します。



健康科学講座 大木 秀一

The 3rd Korea-China-Japan Nursing Conferenceに参加して

2011年10月25～27日に韓国ソウル市の梨花女子大学で開催された第3回日韓看護学会に参加しました。学会テーマはNurse's Social Responsibility and Roleで、参加者は3カ国合わせて約600名でした。

吉田は「日本における硬膜外麻酔分娩をした初産婦と自然分娩をした初産婦の比較研究」に関する研究発表を行いました。演題はA study to compare "primiparas giving birth naturally" and "primiparas giving birth under epidural anesthesia" in Japan です。丸岡は「看護師による退院調整活動の質指標開発に関する研究」の一部として、退院支援検討会に参加した看護師の所属病棟の入院患者に対する退院支援活動の実態と課題に関する研究発表を行いました。演題は "Status and issues associated with ward nurses discharge support activities for inpatients : Comparison before and after discharge support workshops" です。



共同研究者とともに
丸岡（中央）、吉田（右）
（梨花女子大学音楽堂前）

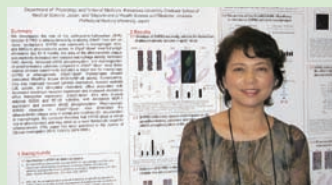
学会期間中はソウル市長選挙戦のまっただ中で街は活気であふれていました。韓国も少子高齢化社会を迎え、看護職者の確保や社会的地位の保証など、日本と同様な課題に直面している状況にあって、看護基礎教育の4年制一元化を実現した韓国の看護職パワーに圧倒された3日間でした。

基礎看護学講座 丸岡 直子

母性看護学講座 吉田 和枝

FASEB 夏期国際会議に参加して

2011年8月にイタリアで開催されたFASEB（Federation of American Societies for Experimental Biology）夏期国際会議に参加し、研究成果を発表しました。FASEBは、健康と疾病に関する主要26学会を統括する米国の学術連合です。様々な重要課題について、世界の一流の研究者が学会の垣根を越えて集う国際会議を多数主催し、研究成果を教育・臨床の場を広めて人類の健康と福祉に貢献すること（Quality Life through Research）を理念に掲げています。今回の国際会議は、私の医学研究のライフワークであるリゾリン脂質メデイエーターの生理学・病態



生理学をテーマとした会議で、米国・ヨーロッパ等の旧知の研究者と再会し、存分にディスカッションを尽くし、サイエンスを堪能することが出来ました。本学共同研究費（海外出張旅費）により有意義な出張が実現しましたことに、この場をお借りして心より感謝を申し上げます。

健康科学講座 多久和 典子

「過疎地域を前に看護大生ができることは何？」への挑戦

石川県能登地方には、「限界集落」と呼ばれる高齢化率50%を越える集落があちこちにあることは知られております。このような集落の医療福祉サービスは脆弱である場合が多いため、お年寄りの健康を気遣う担い手を確保することは地域の喫緊の課題となっております。しかしながら、雇用や介護などの問題も関係して、このような課題の解決を図る具体的な取り組みは十分に行われておりません。

「健康体力科学」ゼミでは、これまで「病気を予防できる看護職者の育成」を目指し、学生自らが地域へ飛び込み、住民との交流を通じてコミュニケーション能力を磨くとともに、大学で学んだ教養や専門知識を活かして地域住民の健康づくりを行ってまいりました。今年度は、このような活動を、過疎地域の村おこしとドッキングさせた地域活性化策に挑戦いたしました。

学生の活動を後押しするため、最初に私は住民と学生による協議会を立ち上げ、活動の予算を確保しました。その後は学生の活性化策を見守ることに徹しました。その結果、学生は住民と協働して、棚田の美しい景観と住民の優しさを活かして集落に人のにぎわいを創出するためのイベントを企画・開催しました。例えば、都会の大学生を招いた「民泊」では50名を越える来訪者が住民と交流を深める一方、健診や「見守り」の活動を通じて住民の健康意識の啓発にも努めました。このような世代間交流は、高齢農家のやる気と学生の責任感を育むとともに、地域活性化に対する気づきを学生に促しました。

「集落を元気にさせるのは住民自身であり、自分たちはそのためのサポーターとして集落へ何度も足を運びコミュニケーションを図ることが重要である」。過疎地域に住むお年寄りの健康を気遣う担い手は、このような活動から育まれるのかもしれませんが。来年度は、このような活動の輪がさらに広がることを期待したいと思います。

看護大生が行うこのような地域づくりは、経済産業省からも高く評価され、「社会人基礎力育成グランプリ 2012」中部地区大会では準優秀賞をいただきました。

人間科学領域 垣花 渉



被災地学生ボランティア

3月6日から9日、学生15名と教員3名の計18名が被災地学生ボランティアに参加しました。活動は宮城県亶^{わたり}理^り町の仮設住宅で行われ、活動内容は仮設住宅の集会所で行われるイベントの手伝いや、実際に自分たちでイベントを企画し、開催することでした。さまざまなイベントを通して住民のみなさんとふれあい、感じたことは、予想以上に元気があるということです。もちろんその中には津波により家、家族または知り合いを失った人たちが多くいます。しかし、どの人も笑顔で気さくに私たちに話しかけてくれ、逆に私たちが元気をもらったように思えました。

亶理町の社会福祉協議会の職員の方によると、もともと亶理町の人たちは元気で明るい人たちばかりなのだそうです。震災後もその町民性は失われることなく町民の中に生き続けていることが感じられました。しかし、話を聞いているとやはり会話の節々に「流された」などの言葉があり、私たちはただただ住民の人たちの言葉に耳を傾けることしかできませんでした。ですが、他人である私たちが住民の話聞くことで、少しでも心の負担を軽くできたと思います。

今回ボランティアに行き、被災地では瓦礫の処理や放射線など物理的な問題ばかりではなく、住民の心のケア不足やひきこもりなど心理的な問題もまだまだ解決されていないことに気がきました。私たちが被災者にできることは少ないかもしれませんが、被災地に行き、住民の話聞くなどほんの小さなボランティアが被災者の心のケアへと繋がっていくのではないのでしょうか。

被災地学生ボランティア 第一班



「^{きと}きと^{きと}来人喜人里創り創成プロジェクト」開始!

本学と能登町との連携事業「来人喜人里創り創成プロジェクト」が2011年8月に「平成23年度石川県地域連携促進事業」の採択を受けました。

9月25日の「猿鬼歩こう走ろう健康大会」における「健康キャンペーン」(看護大より67名参加、イベントテントにて健康診断、ミニゲームなど開催)をスタートに、10月の看大祭での「クライネメッセ」(能登町特産品紹介として「夢一輪館」「能登高校」が地元食材を使った商品を販売、「マルガージェラード」の地元食材ジェラートの販売、地元の祭り紹介と猿鬼健康大会での様子をVTRにて放映)、11月からは食事調査(能登町病気化予防教室希望者対象に食事調査後に結果報告、報告時に体組成検査なども実施)、12月からは大学院生たちを中心に能登町地域診断、そして明けて1月からは「きときと朝ご飯」レシピコンテストを開催しました。能登の特産品や食材を使用して、健康的で簡単に作られる朝ご飯レシピを募集しました。3月10日(土)には能登空港で、レシピコンテストの最終審査として、一次審査で選ばれた5名が調理し、最優秀レシピが決定しました。当日はプロジェクトの報告会を兼ねて、健康に関する講話や、能登食材を使った新作スイーツのお披露目会なども合わせて行いました。

本プロジェクトは、上記のように大きくわけて4つのプロジェクトを進めてきましたが、平成24年度も採択をされましたので、引き続き能登町との地域連携を進めていきます。

人間科学領域 浅見 洋



猿鬼歩こう走ろう健康大会



クライネメッセ (看大祭)

認知症にやさしいまちづくりシンポジウム

かほく市と石川県立看護大学の包括的連携協定締結記念事業として「認知症にやさしいまちづくりシンポジウム」が、10月30日日本学講堂にて開催されました。開催にむけて記念事業の実行委員会が立ち上がり、地域の老人クラブ、民生委員、各種女性団体連絡協議会、認知症予防ボランティアいちご会、大海小学校、看大祭実行委員、認知症疾患センター、医師会、介護支援専門委員会、社会福祉協議会、若年性認知症のひとと家族の会、かほく市、看護大学から代表者が参加し議論しました。

当日は、第1部に城戸真亜子さんの“心をつなぐ介護日記”の講演があり、第2部は、かほく市での認知症にやさしいまちづくりの取り組みをパネルディスカッションで紹介しました。老人クラブの活動は、家族のような温かさがあり、この関係があればこそ、認知症では?と思ったときに受診をすすめられると話されていました。いちご会は、地域ケア総合センターの調査研究事業がきっかけで結成され、老人福祉センターでの認知症予防活動やグループホーム訪問など自主活動に発展しています。大海小学校は「ともに生きる」ということを認知症の学習を通して子ども達が考える総合学習の取り組みを紹介していただきました。

このような活動は地道に続けることが重要であり、看護大学が地域住民の皆様とともに歩んできたことを実感し、感謝すると共に、今後は実行委員会の結びつきを大切にもっと多くの方々と一緒に活動していきたいと願っています。

実行委員 老年看護学講座 中道 淳子



キャンパスライフ

夏期アメリカ看護研修に参加して

夏期アメリカ看護研修では、南カリフォルニア大学病院、ロサンゼルス・シティカレッジ、ロサンゼルス小児病院、シトラスバレーホスピス、ナーシングホームを視察してきました。どの病院や施設も設備が整っており、患者さんや利用者さんが過ごしやすい環境だと感じました。また、日本に比べ高度医療が進んでおり、看護師が求められる能力の大きさも実感できました。

ナーシングホームでは、患者さんは疾患を抱えながらもいきいきとした表情でレクリエーションやリハビリテーションを行っていたことが印象的であり、療養生活へのモチベーションの高さも感じられました。スタッフの方は“患者さんの意思を尊重してできるだけ望みが叶えられるよう関わっている”とおっしゃっており、患者さんのニーズを満たしQOL (Quality of Life) 向上につなげる看護の重要性を改めて学ぶことができました。



また、アメリカの看護師はキャリア志向が高い方が多く、誇りを持ちながら働いているように感じ、このような姿が自分自身にとってもよい刺激となり研修に参加して本当に良かったと思えました。

3年 山口 由莉

第12回看大祭を終えて

看大祭が終わり、早くも約3カ月が経ちました。懐かしいような懐かしくないようなすごく不思議な気持ちです。今回の看大祭実行委員は、本来引っ張らなくてはならない2年生が少なく、本当に大丈夫なのか？と思うことがしばしばありました。しかし実行委員は皆、とても仲が良く一丸となって取り組むことができました。また新しい企画もたくさんあり、戸惑うことも多かったですが、先輩方や先生方のお世話になりながらなんとかやり抜くことができました。一つ一つの仕事に取り組むたびに周りの優しさに触れ、本当に頼りっぱなしの私でした。委員長という大役を果たすことができたのも、実行委員をはじめ様々な周りの人の助けがあったからだと心から思います。



看大祭当日は2日目は少し雨に悩まされたものの、念願であった外でのステージも実施出来、たくさんの方々足を運んで頂くことができました。改善点もたくさん見つかりましたが、無事みんなで看大祭を成功できたことは、これからの私達の大きな糧となると思います。来年も後輩たちが新たな看大祭を築き上げてくれることを期待しています。最後に地域の皆様をはじめ、協力して下さいました皆様はこの場を借りて感謝の気持ちを伝えたいです。本当にありがとうございました。

実行委員長 2年 河合 祐来

同窓会の活動

さくら会設立5周年事業 第1回ホームカミングデイ開催



本同窓会では常日頃より、在学生と同窓生とのよりよい関係づくりや支援について検討しており、学生セミナー・卒業前技術演習・座談会への講師派遣を行って参りました。その

ような中、同窓生が進化する大学を知り、在学生への支援活動に対する理解をより深めるために、大学のご協力を得てホームカミングデイを開催いたしました。当日は午前より受付を開始し、同日開催中の看大祭を自由に楽しみ、大学構内(看護スキル・ラボなど)を見学しました。またティータイムには懇親会を開催し、大学近くのおいしいケーキを食べながら近況の報告や情報交換、先生方との懐かしい時間を過ごしました。参加者は家族を含めて1~8期生の50人以上集まり、楽しい時間となりました。先生方より好評もいただき、今後も継続して開催していきたいと思っています。

石川県立看護大学同窓会 会長 小田 沙矢香

学会表彰

日本家族看護学会ベストポスター賞受賞



演題

「終末期がん患者を看病する家族の心理的安寧に影響する他者との関係性の様相」

成人看護学講座 加藤 亜妃子 助教(左)

指導教員 牧野 智恵 教授(右)

この一年を振り返って

基礎看護実習 I



特別養護老人ホームにおける実習で、私はコミュニケーションの大切さを学びました。初めて入所者の方と話をした時、どのようにコミュニケーションをとればよいのか分からず、とても戸惑いました。しかし、目を合わせたり、にこやかな表情で側にいたりするだけでも、意思の疎通ができると感じるようになりました。そこで、食事中や入浴中など、どんなケアの時でもコミュニケーションをとることができるように、自分の表情を意識しながら話しかけるようにしました。話し方を工夫することで、それまで以上に入所者の方とよい関わりをもつことができました。コミュニケーションをとることは、その人を尊重したケアとなり、その人に合った看護につながることを学びました。今後も講義や実習を通して、一人一人に合わせたコミュニケーションやケアを行うことができるよう、しっかり看護について学んでいきたいです。

1年 岡本 修子

基礎看護実習 II



基礎看護実習 II は、私たちにとって初めての病棟での実習でした。いざ患者さんにお会いしたり、看護師さんたちから指導を受けて痛感したのは、日々の学習の大切さでした。私が行った事前学習では全然知識が足りず、特に最初の1週間は、何も分からない自分が情けなく、正直とても辛かったです。しかし先生や看護師さんたちの指導のもと実習・学習を進めていくうちに、自分で学んだことがほんの少しずつ結びついてきて、患者さんの状態を根拠づけて考え看護計画を実施・評価できたとき、大きな充実感と喜びがありました。それまではなんとなく受けていた講義でしたが、実習を通して、講義で学ぶ全てのことが臨床で活用されることを知り、講義に対する姿勢が変わったように感じます。まだまだ看護師になるための入り口に過ぎませんが、とても意味のある実習になりました。この実習で経験したことを活かし、これからも日々頑張っていきたいと思えます。

2年 山本 美恵

第IV段階実習



『看護とは?』入学当初から何度も授業で耳にしてきましたが、それに対する明確な答えは見つかりませんでした。しかし、真剣に患者さんと向き合い、実際に看護援助を行っていく過程を繰り返すことで、もしかしたらこれが看護かな、という気付きと、これなら私もやっていけるかもしれないという自信が得られました。

実習中は、担当させていただいた患者さんの事を考えているはずが、実は自分自身の考え方の癖や弱いところなどと向き合っていることもしばしばあり、これは正直辛いことでした。しかし、専門職として働くためには、己を知るということも避けては通れない過程なのかな、とも思います。

また実習は、最前線で実際に活躍されている多職種の人と関わるとても良い機会です。私は学生という恵まれた立場で様々な学びの中から、自分自身のやりたいことなども明確になってきました。是非、今後実習を控えている学生の皆さんにも『食欲に』実習に臨むことをお勧めします。

3年 高山 清敏

卒業研究



私にとって卒業研究は、今まで学んだ基礎知識や臨地実習での学びをさらに深められただけでなく、自己成長の機会となりました。

私は、実習で認知症の高齢者との関わりを通して老年看護学に興味を持ち、「老年看護学」分野での研究に取り組みたいと思いました。卒業研究を進めていく中で、テーマ設定や研究計画についてゼミで検討を重ね研究を始めるにあたっての準備が重要であることを実感しました。そして、調査のために施設へ向かい、施設スタッフへの説明や対象者の方々との関わりを通して、施設の様子や対象者の特徴などを自分自身で見て感じる事ができ、とても充実した研究にすることができました。調査終了後、結果の分析やその考察について繰り返し見なおすといった大変な作業もありましたが、温かくご指導してくださった先生方や励ましあった仲間のお陰で乗り越えることができたと思います。この経験を生かして今後も看護への学びを深めていこうと思います。

4年 丸山 彩音

大学院 博士前期課程



看護師として、ICU(集中治療室)、ER(緊急救命室)、NICU(新生児特定集中治療室)や精神科病棟で約20年間勤務し、その後「地域連携ステーション」で看護学生を指導しながら行政担当者と共に地域サポートを行ってきました。そこでの学びには、それぞれの立場によつての地域サポート支援に対する考え方の違い、地域の捉え方の違いがありました。そして「看護師として地域を学び生活の場を理解したコミュニティ支援をしたい」と考え、「看護実践者育成」にフォーカスした教育プログラムがある石川県立看護大学を受験しました。

入学して半年間は、これまでの臨床の立場では考える事が出来た看護学を大学院では体系的に述べる技術が必要なたため、当初は大変苦勞しました。今は、大学院生活にも慣れ、大学院で繰り返される授業は、一つ一つが看護の奥深さを感じられるものであり、私はそこから看護についての喜びを知りました。そして、「良い看護とは何か」と考えながら修士論文に向け気を引き締め頑張っています。

コミュニティケア分野 1年 阿川 啓子

地域ケア総合センターから

こんにちは、地域ケア総合センターです。平成24年度地域ケア総合センターは、今までのセンターの取り組みを見直して「生涯学習・人材育成事業」、「地域連携事業」、「国際貢献・交流事業」の3本柱で運営することになりました。事業をわかりやすくすると同時に本学の特色を今まで以上に活かしていきたいと考えています。今回は、生涯学習・人材育成事業についてお知らせします。県民のみならずには、昨年の東日本大震災の体験を踏まえて、公開講座「シリーズ災害看護」を本学の教員から発信できる企画を考えております。子育て支援講座も今まで以上に充実した取り組みとしていくつもりです。専門職向けには、認定看護師や専門看護師をめざす方々にウォーミングアップとなる講座を開催予定です。その他、臨床への出前講義や看護研究の支援、看護教員養成講習会の開催、介護職員等の研修事業を行政や社会福祉協議会と連携しながら実施するのも当センターの特徴でしょう。

今回は「地域連携事業」についてお知らせしたいと思います。

地域ケア総合センター長 川島 和代

卒業生の内定状況

3月26日現在の就職内定・進学状況は次のとおりとなっております。

<県内就職内定・進学先>

【看護師】石川県立中央病院、金沢市立病院、金沢大学附属病院、公立松任石川中央病院、公立能登総合病院、金沢医療センター、小松市民病院、金沢社会保険病院、金沢医科大学病院、金沢赤十字病院

【保健師】金沢市、野々市市、内灘町、石川県予防医学協会

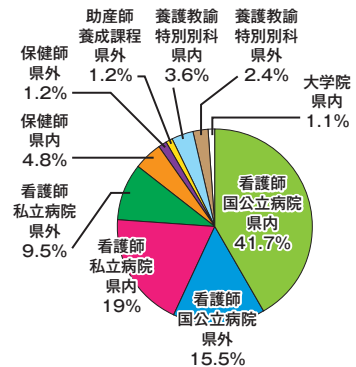
【進学】石川県立看護大学大学院、金沢大学養護教諭特別別科 など

<県外就職内定・進学先>

【看護師】富山県立中央病院、福井大学医学部附属病院、国立循環器病研究センター、千葉県立こども病院、富山大学附属病院、横浜市立大学附属病院、静岡県立静岡がんセンター、富山赤十字病院、北里大学病院、福井県済生会病院

【保健師】砺波市

【進学】新潟大学養護教諭特別別科、和歌山県立医科大学助産学専攻科 など



第9期生内定状況
(平成24年3月現在)

国家試験対策と国家試験結果

4年生は、最終学年に履修すべき講義と実習、これまでの学びの集大成となる卒業研究、そして就職試験と国家試験受験勉強等、複数の課題について一度に取り組みねばならないことに苦労しています。

4年生になってから慌てることなく学習するには、入学直後より大学で学ぶことを自覚し、自分にあった学習スタイルを構築し、学習習慣を身につけることが重要です。学生自身が自己の学習状況を振り返り、行動を修正できるように支援しています。

国家試験対策・進路アドバイザー部会長 村井 嘉子

平成23年度看護師・保健師国家試験合格状況 (第9期生の状況)

区分	卒業生	受験者数	合格者数	合格率	(参考) 全国平均
看護師	78名	78名	77名	98.7%	95.1%
保健師	84名	84名	82名	97.6%	89.2%

キャンパススケジュール 2012年度

前 期		後 期	
入学式	4月 6日(金)	授業開始	10月 1日(月)
ガイダンス	4月 6日(金) ~ 4月10日(火)	履修登録受付	9月 24日(月) ~ 10月 5日(金)
健康診断	4月 9日(月)	大学祭(看大祭)	10月 27日(土) ~ 10月28日(日)
授業開始	4月 11日(水)	冬季休業	12月 25日(火) ~ 1月 6日(日)
履修登録受付	4月 6日(金) ~ 4月17日(火)	補講・試験	2月 12日(火) ~ 2月21日(木)
開学記念日	5月 29日(火)	春季休業	2月 22日(金) ~ 3月31日(日)
オープンキャンパス	7月 21日(土)	卒業式・学位授与式	3月 16日(土) 予定
補講・試験	8月 1日(水) ~ 8月 9日(木)		
夏季休業	8月 10日(金) ~ 9月30日(日)		
夏期アメリカ看護研修	8月 31日(金) ~ 9月13日(木)		